

# 基幹労連シニアクラブ・ニュース

基幹労連退職者の会事務局

2016/07/29

第30号



## 組織・運営の充実・強化が重点課題

### シニアクラブ第5回総会を開催します

と き：2016年10月6日（木）15時30分～

ところ：宮城県仙台市

ぎだい：第1号議案 2017年度活動計画

第2号議案 2017年度予算

第3号議案 役員の補選

#### 第1号議案 2017年度活動計画

##### はじめに

シニアクラブを結成して3年半が経過しました。

2016年度は、基幹労連本部と連携して、全国の退職者組織の拡大、運営充実をめざすとともに、参議院議員比例区選挙に精力的に取り組んできました。

組織の拡大、運営の充実の取り組みは、各県本部における努力によって徐々に進みつつありますが、まだ道半ばであり、今年度も重点的な活動を展開していきます。

参議院議員比例区選挙の結果については、オール基幹労連として本格的な取り組みを展開してきただけに「痛恨の極み」といわざるをえず、今後の政策実現の取り組みに向けて、改めて組織力量強化の課題が浮き彫りとなりました。

#### 1. 組織運営

- (1) 中央組織においては、年1回の総会、年2回程度の幹事会・三役会を中心に運営していきます。総会には、県本部退職者組織から代表者1名の参加を要請し、旅費はシニアクラブ負担とします。
- (2) 幹事会、三役会の運営については、関東地区在住者で行う幹事連絡会、三役連絡会などを適宜配置しながら、機動的に行っていくこととします。
- (3) 地方ブロック懇談会については、組織運営の充実・強化に効果があると判断し、今年度も2017年4月～6月頃の開催を予定します。

#### 2. 各県本部の退職者組織との連携

- (1) 退職者組織ができたものの、まだ、具体的な活動の展開ができていない県本部組織もあります。したがって、各県本部退職者組織については、当該県本部と連携して、総会、幹事会、

交流会などの開催、運営充実に努めることとします。

(2) 全ての県本部退職者組織は、構成組織の拡大と活動・運営の充実に関し、具体的な目標を設定して活動を展開していくこととします。

(3) 中央事務局としては、各県本部の退職者組織、活動の実態を把握しながら、必要に応じて、各県本部に出向くなど、組織、活動の充実に支援します。

(4) 県本部の退職者組織の総会（または幹事会・役員会・研修会）には、要請に応じてシニアクラブ中央役員を派遣します。

### 3. 基幹労連幹の会との連携

2017年3月30日開催予定の基幹労連幹の会第5回総会には、シニアクラブの中央役員が参加するとともに、基幹労連中央本部と連携して運営の充実に支援していきます。

### 4. 退職者連合への対応

老後を安心して暮らせる社会にするために、また、安心・信頼の社会保障制度を確立するために、全国の退職者の組織と連携した活動を展開していきます。

(1) 退職者連合の中央の総会、諸会議、諸行動には関東地区在住のシニアクラブ中央役員を中心に対応していきます。

(2) 2017全国高齢者集会（2017年9月下旬開催予定）には、中央役員を中心に対応しますが、これまでと同様に、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の各県本部退職者組織の代表にも参加を要請します。

(3) 各県本部の退職者組織は、可能な限り各地方連合の退職者組織に加盟、参画して活動を行うこととし、まだ加盟の条件が整わない組織は、条件整備に努めます。

### 5. 政策制度・政策実現活動への取り組み

(1) 政策制度・政策実現活動については、基幹労連の政策・制度要求との整合を取りながら、中央、地方での取り組みを進めます。

(2) テーマによっては、基幹労連シニアクラブとしての考え方を整理して、各県本部の退職者組織に徹底していくこととします。

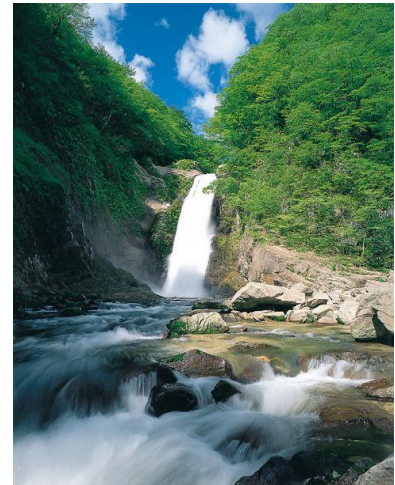
### 6. 各種選挙への取り組み

地方自治体選挙、国政選挙に対して、各県本部の退職者組織の実態に即しながら、基幹労連と連携した取り組みを進めます。

### 7. シニアクラブニュースの発行

(1) 年6回程度の発行を予定します。引き続き、各県本部の事務局、構成組織を通じたネット配信とします。

(2) シニアクラブニュースは基幹労連ホームページにも掲載されるようになり、身近な情報媒体として活用され始めていますが、各県本部の退職者組織の方々には、各県本部、各構成組織に配信し、そこからつなげていただくことが基本となります。したがって、県本部事務局長および構成組織のOB会担当の方々には、退職者組織役員やOBの方々には情報が伝わるよ



うな支援活動を要請します。

(3) 退職者組織の役員個人としてネットワークが接続できる場合は、シニアクラブから直接配信します。

## 8. 財政

基幹労連の助成金によって運営し、当面は独自会費の徴収を見送ります。

### 第24回参議院議員選挙 厳しい状況の中、奮闘するも及ばず 多大なるご支援をありがとうございました。

第24回参議院議員選挙は、18日間の熱い闘いの末、7月10日に幕を閉じました。今回の選挙は、デフレからの脱却と経済の好循環や持続可能な社会保障制度の実現、そして憲法改正とその手続きをめぐる論議など、日本の将来を大きく左右する節目の選挙でありました。

基幹労連は、捲土重来を期して「ものづくり・人づくり・安心づくり」を柱に据え、比例代表に「とどろき利治」氏を擁立し、組織の威信をかけて取り組みを展開しました。

選挙結果は、前回の参議院議員選挙同様に民進党（旧民主党）が劣勢にさらされた中で「とどろき利治」氏は接戦の末、惜敗に終わりました。皆様のご期待に応えることができず痛恨の極みです。この結果を踏まえ、足らざるをどう克服するか組織課題をしっかりと抽出し、労働運動の強化に向けて、決意を新たに臨んでまいります。

皆様には、懸命に活動に取り組んでいただいたことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

基幹労連選挙対策本部長 吉岡正親

(基幹労連の公式文書の一部を抜粋して掲載いたしました。)

## シニアクラブ・地域からの便り

### 愛知県本部退職者の会 健康で安心して暮らせる社会に向けて

基幹労連愛知県本部退職者の会は、旧造船部門で構成する愛知県下の総合重工5組合の退職者の会が2004年3月24日に第1回総会を開催し、その後「基幹労連退職者の会」に引き継ぎ、連携を取りながら活動を展開しています。

また、連合愛知シルバー倶楽部には、副会長として名航会（三菱名航支部）の飯田会長、事務局長に名誘会（三菱名誘支部）の田中事務局長および幹事には冷寿会（三菱名冷支部）の伊藤氏、労友会（IHI労連名古屋支部）の遠藤氏、特別組合員会（住重労連名古屋地本）の深谷氏、あゆち会（新日鐵住金名古屋労組）の奥野氏、ダイヤモンドクラブ（愛知製鋼労組）の荒堀氏の5名が役員となり政





策実現の取り組み等、高齢者が健康で安心して暮らせる社会に向け活動を行っています。県本部の活動では、毎年4月頃に総会を5・6月頃には会員相互の交流の場として交流会（ゴルフ大会）を実施しています。

## 日本退職者連合第20回定期総会が開催されました（7/15）

### “生き生きと安心して暮らせる社会へ 行動する退職者連合”

「安心・信頼の社会保障制度の確立で、生き生きと安心して暮らせる社会にしよう」をスローガンに退職者連合は、7月15日（金）午前9時30分から連合会館において役員や代議員、傍聴者など197名の出席の下、第20回定期総会を開催しました。基幹労連からは4名が出席し、田中勉副事務局長が資格審査委員長を務めました。

今年の総会の特徴は、総会宣言で「行動する退職者連合」を全面に打ち出したことです。決定された運動方針を受けて今後1年間、様々な行動を通じて方針の具体化に取り組むこととなります。



主催者あいさつで阿部保吉会長は、はじめに総会直前に行われた7月10日投開票の参院選の結果に言及、「安倍政権の暴走ストップ、社会保障制度要求の実現を目指して連合と力を合わせ、かつてない取り組みを展開した」と退職者連合の闘争態勢を評価しました。

その上で三つの課題について次のように述べました。まず比例選挙結果について「12人の連合組織内候補が8人の当選にとどまったことは退職者連合としても大きな課題を残した」と指摘。また32ある定数一人の選挙区での野党候補の一本化について「11勝21敗となり、大きく負け越した。しかし無党派層の一部を取り込み、前回選挙を上回る成果をあげた実績をどう評価するか、率直な検証が必要」としました。三つ目として「自民・公明などの改憲勢力に三分の二の議席を許すという極めて残念な結果となった」とし、「高齢者が安心して暮らせる社会は、戦争をしない平和な社会」と強調、憲法改悪阻止を訴えました。

さらに、運動方針との関連で阿部会長は、雇用や格差の改善にふれ「雇用の安定なくして社会保障なし」として、今後とも一層の取り組みを重視していく考えを示しました。

組織拡大については、「連合のご指導と中央・地方の一体的な取り組みにより、100万組織の早期実現を目指す」と決意を表明。また要求を実現していくためには「退職者連合の財政基盤の確立が必要」と訴えました。